平成 25 年 7 月 11 日

各　位

会 社 名　株式会社ヒマラヤ
代表者名　代表取締役社長　野水　優治
（コード番号　7514　東証・名証 1 部）
問合せ先　常 務 取 締 役　井上　卓郎
（TEL　058（271）6622（代表））

（訂正）「平成 25 年８月期 第３四半期決算短信［日本基準］(連結)」の一部訂正に関するお知らせ

平成 25 年６月 28 日に公表いたしました「平成 25 年８月期 第３四半期決算短信［日本基準］(連結)」の一部に訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。(訂正箇所は下線を付して表示しております。)

なお、数値データについては、訂正はありません。

訂正箇所

添付資料 1 ページ

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

【訂正前】

当第３四半期連結累計期間（平成 24 年９月１日～平成 25 年５月 31 日）における我が国の経済は、円高の継続が輸出環境を悪化させていたこと、完全失業率が若年層を中心として高い水準にあったことなどから厳しい状況が続いておりましたが、政権交代後の新政権による物価目標や金融政策発表による株価の上昇などを通して企業の業況判断が改善しつつあり、景気回復への期待感が高まっております。しかしながら、デフレ基調の改善にはまだ時間がかかると予想され、引き続き生活防衛意識の高まりにより個人消費は厳しい選別基準を伴うものになると注視しております。

当第３四半期連結累計期間における連結会社の売上げは、一般スポーツ用品はランニングブームに代表される健康志向の高まりが継続していることなどからシューズを中心に関連商品群が好調であったこと、2014 年サッカーワールドカップ最終予選や 2013 年ワールドベースボールクラシックでの日本代表の活躍により市場が活性化したことなどから前年同期比 107.5％となりました。ゴルフ用品は厳しい消費環境下、ゴルフクラブは一品単価の下落および価格競争の激化によりやや低調であったものの、シューズ・バッグ・ボールなどの周辺アイテムが順調に推移し、後半からゴルフウェアの動きも回復した結果、前年同期比 101.3％となりました。スキー・スノーボード用品は市場が縮小傾向にありましたが、降雪に恵まれたシーズンとなったことに加え、スキー場や鉄道会社での集客キャンペーンが一定の成果を得たとみられることから需要が喚起され前年同期

比100.5%となりました。アウトドア用品は富士山の世界文化遺産登録が確定的となったことなどを受けて、新規参入層の裾野が広がったことなどから、さらにアウトドアフィールド需要が活性化したこと、アウトドア系ブランドのタウンユースでのニーズの高まりが継続していることにより、前年同期比122.3%となりました。連結売上総利益率は11月後半からの気温が低く推移したことにより、冬物防寒衣料および冬物雑貨の売上げがシーズン初頭から好調であったこと、プライベートブランドでは、機能性を高めたウェア『爽 The Body』(吸汗・速乾機能)、『温 The Body』(保温・発熱機能)を中心に売上に寄与したことなどから37.8%となり、前年同期に比べ0.1ポイント上昇いたしました。

店舗については、株式会社ヒマラヤにて11店舗を出店し3店舗を閉店、株式会社ビーアンドディーにて3店舗を出店し1店舗を閉店したことにより、平成25年5月末時点で当社グループの店舗数は全国に株式会社ヒマラヤ108店舗､株式会社ビーアンドディー31店舗となり合計139店舗、売場面積は238,657㎡となりました。

販売費及び一般管理費については、新規出店時の一時費用および店舗運営費用全般の見直し、抑制を継続して実施した結果、当初計画に対して収益改善に寄与いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は売上高48,941百万円(前年同期比6.7%増)、営業利益1,780百万円(前年同期比26.5%増)、経常利益1,858百万円(前年期比33.1%増)、四半期純利益874百万円(前年同期比32.7%増)となりました。

【訂正後】

当第3四半期連結累計期間(平成24年9月1日～平成25年5月31日)における我が国の経済は、円高の継続が輸出環境を悪化させていたこと、完全失業率が若年層を中心として高い水準にあったことなどから厳しい状況が続いておりましたが、政権交代後の新政権による物価目標や金融政策発表による株価の上昇などを通して企業の業況判断が改善しつつあり、景気回復への期待感が高まっております。しかしながら、デフレ基調の改善にはまだ時間がかかると予想され、引き続き生活防衛意識の高まりにより個人消費は厳しい選別基準を伴うものになると注視しております。

当第3四半期連結累計期間における連結会社の売上げは、一般スポーツ用品はランニングブームに代表される健康志向の高まりが継続していることなどからシューズを中心に関連商品群が好調であったこと､2014年サッカーワールドカップ最終予選や2013年ワールドベースボールクラシックでの日本代表の活躍により市場が活性化したことなどから前年同期比107.5%となりました。ゴルフ用品は厳しい消費環境下、ゴルフクラブは一品単価の下落および価格競争の激化によりやや低調であったものの、シューズ・バッグ・ボールなどの周辺アイテムが順調に推移し、後半からゴルフウェアの動きも回復した結果、前年同期比101.3%となりました。スキー・スノーボード用品は市場が縮小傾向にありましたが、降雪に恵まれたシーズンとなったことに加え、スキー場や鉄道会社での集客キャンペーンが一定の成果を得たとみられることから需要が喚起され前年同期比100.5%となりました。アウトドア用品は富士山の世界文化遺産登録が確定的となったことなどを受けて、新規参入層の裾野が広がったことなどから、さらにアウトドアフィールド需要が活性

化したこと、アウトドア系ブランドのタウンユースでのニーズの高まりが継続していることにより、前年同期比 122.3%となりました。連結売上総利益率は 11 月後半からの気温が低く推移したことにより、冬物防寒衣料および冬物雑貨の売上げがシーズン初頭から好調であったこと、プライベートブランドでは、機能性を高めたウェア『爽 The Body』（吸汗・速乾機能）、『温 The Body』（保温・発熱機能）を中心に売上に寄与したことなどから 37.8%となり、前年同期に比べ 0.1 ポイント上昇いたしました。

店舗については、株式会社ヒマラヤにて 11 店舗を出店し３店舗を閉店、株式会社ビーアンドディーにて３店舗を出店し１店舗を閉店したことにより、平成 25 年５月末時点で当社グループの店舗数は全国に株式会社ヒマラヤ 108 店舗、株式会社ビーアンドディー31 店舗となり合計 139 店舗、売場面積は 239,146 ㎡となりました。

販売費及び一般管理費については、新規出店時の一時費用および店舗運営費用全般の見直し、抑制を継続して実施した結果、当初計画に対して収益改善に寄与いたしました。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間における連結業績は売上高 48,941 百万円（前年同期比 6.7%増）、営業利益 1,780 百万円（前年同期比 26.5%増）、経常利益 1,858 百万円（前年期比 33.1%増）、四半期純利益 874 百万円（前年同期比 32.7%増）となりました。

以上